

2023年6月4日 No.3670

先週の講壇から

鳩の翼

マルコによる福音書 第1章9～11節

聖句「水の中から上るとすぐ、天が裂けて「霊、が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。」(1:10)

1. 《鳩のレース》 通信が発達する以前には「伝書鳩」「軍用鳩」として、鳩が活用されていました。現在では「レース鳩」として競技用に飼育されています。最も過酷な長距離レースは稚内から東京までの1100キロです。関東一円の飼育者たちが1300羽もの鳩を放つのですが、無事に帰還できる鳩は2、3羽に過ぎません。彼らが飛ぶのを止めるのは、力尽きて死を迎える時だけなのです。
2. 《鳩のように》 鳩の翼は如何に強靱なものか。天候が良ければ、レース鳩は時速60キロで飛び続けることが出来ます。「詩編」55編や68編は、鳩の逞しさを歌っています。イエスさまの受洗の場面では「聖霊」が鳩に譬えられています。聖霊が天から降臨する様子を、鳩が飛んで来て、木の枝に止まった瞬間、地面に舞い降りた瞬間の美しい姿になぞらえているのです。キリスト者にとって「受洗日」は「第2の誕生日」です。ペンテコステ（聖霊降臨日）は「教会の誕生日」と言われますが、それに先立つイエスさまの御受洗も「誕生日」だったのです。「マルコによる福音書」は「クリスマス」抜きで、イエスさまを登場させています。幼な子でも少年でもなく、主はメシアとして世に顕われたと証しているのです。
3. 《平和の象徴》 鳩を「平和の象徴」とするイメージは「ノアの箱舟」の物語から来ています。画家のピカソは生涯にわたって平和の鳩を描き続けました。有名な「ゲルニカ」にも傷を受けた鳩が描かれています。ゲルニカはスペイン内戦の時、ドイツ空軍によって無差別爆撃を受けた町の名前です。一般市民を大量殺戮して、敵陣営の戦意を喪失させようとするのが「戦略爆撃の思想」です。それは巡り巡って、広島・長崎の原爆投下に受け継がれて行きます。聖霊とは、在天の神が地上の私たちに宛てられたメッセージです。世界が瓦礫と暗闇に閉ざされても、私たちはイエスが証しされた平和を叫び続けて参りたいと思うのです。

朝日研一朗牧師